



東風

横浜市立綱島東小学校

【 通 じ る 心 】

校長 三橋 国雄

過ごしやすい季節になりました。学校ではあと1週間で終わる前期のまとめをしています。それと並行して11月3日に行われる運動会に向けての取組も少しずつ始まりました。5・6年生の実行委員を中心に全校挙げて、行われる大きな学校行事です。今年度は3年ぶりに全校児童が校庭に集まった形での運動会を行おうと計画しています。残念ながら保護者の皆様は学年ごとに入れ替え制で参観していただく予定です。ご協力よろしく申し上げます。

子ども達には、得意なこと、苦手なことが、それぞれにあることと思います。ただ思うことは小学生の今だから経験できることをたくさん経験させてあげたいということです。日常を過ごすとき、やらなくてはいけないことをやらなかったとしても、今はそれほど困ることはないでしょう。しかし、それが、何時かは定かではないながら、「今」やらなければいけないことをやらなかったために、解らなかつたり、できなかつたりして困るときが来ると思います。

「今」やらなくてはいけないことを、解らない、難しいからいやだな、めんどくさいと思いつつもやっている人は、やっつけてよかったと思うときがあると思います。

子ども達は、今は小学生。義務教育の9年間のうちの6年を小学校で過ごします。この6年間の学びを積み残して次の中学校での3年間を過ごすことは、相当な努力を要することになると考えられます。そのことに、そうなる前に気が付けることが大切です。そのために学校があります。教室があります。そして家庭があります。教師は「今」やらなくてはいけないことをこつこつと積み重ねることの大切さを、いろいろな伝え

方で伝えていきます。そして、ご家庭の協力の必要性、大切さを思います。「今」やらなくてはいけないことは、親が心を鬼にしてでも取り組ませていただきたいと思います。

それは、学校で教師が「何が何でも」と無理やり取り組ませることが難しい世の中だからです。保護者の方と何が必要であるかを共有することができたら、きっと教師の思いも子ども達に伝わるのではないかと思います。

保護者の方と教師との関係が、一緒に子どもの教育を考えるとという方向性を同じくしたものであること。教師にまかせるところ、保護者の方にまかせるところをお互いが理解しあっていることが大切なのではないかと思います。そして、保護者の方は子どもの前で教師の批判はしない。担任が若い先生なら人生の先輩である親が教師を育てることもある。教師と親がそんな関係を築ければ、子どもたちも安心して学校で過ごせると思います。また、保護者の方も安心して学校に通わせることができるでしょう。教師も三者の関係性を深めながら教育活動に専念できるでしょう。お互いが尊重しあいながら子どもの成長にかかわることで、教師と保護者の方の思いが子どもたちにしっかり伝わるのではないのでしょうか。それが本来の意味での教育であり、そこには保護者と児童と教師の三者の「通じる心」があるのではないのでしょうか。

まず、私たちがしっかりと向き合い、同じ方向を向いて行動に移すことから、ご一緒に進めていきたいと思っています。今月も変わらぬご支援ご協力をお願いします。